

## 悩みの中での助け

池田 勇人

牧師辞任願いは、役員会で受理されぬまま一年半……私は初夏の松原湖で主のみ声を聴いた。

『…羊の所有者でない雇い人は……逃げて行きます……わたしは良い牧者です。……』  
(ヨハネ十・12～14)

心は定まり、辞任願いを撤回。役員の方々が大きな喜びで包んでくださった。

私の辞任理由はこうであった。第一に十年たったら次の任地に、と今まで来たこと。第二に三人娘にとって、生ぬるさから脱出するチャンスとなるのではないか、ということ。第三にJCPの奉仕を考えると、東京の教会にいた方が便利ではないか、ということ。

一見もつともな理由だ。でもそれら積極的なものより、否定的なものの方が自分の中で強かったように思う。

二年連続受洗者がなかった(毎年多少にかかわらず受洗者が起こされていたのに)ショック。一般会計も百数十万円の赤字で大不調。主よ、私の十年間は何だったのでしょうか、

と燃えつき症状であった。

この後、更なる人生最大のピンチが追い打ちをかけてきた。娘の結婚問題なのだが、もう少しで卒業という時になぜ？ 神さま、ウソでしよう？ まさか私の家に限って！

今詳細は述べられないが、睡眠障害が半年以上続く。こうなったのは結局のところ、自分が父親として、牧師としても失格者だったからと責め続けた。「あの時やめていればこんなことにならなかつたのに……」後悔の雪ダルマがふくらんでゆく。

しかしあわれみ深い神は、うつ病の谷底に迷っている羊を、抱きかかえて、その傷口をいやしてくださった。「……悩んでいる者をその悩みの中で助け出し、そのしいたげの中で彼らの耳を聞かれる。」（ヨブ三六・15）

今私の牧会方針は、大きく方向転換をした。ガンバレと教会成長を目ざすのではなく、主と羊達が共にいることを喜ぶ教会形成へと。